

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援
現地からのお便り

2017年2月
Applied Environmental Research Foundation (AERF)
コンサベーション・インターナショナル

*本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF)が実施します。

生物多様性調査

森林保全対象地の選定には、その場所を保全することの重要性を調べるのが大切です。今期、候補地の一部であるカーベット村とデバデ村で生物多様性の調査を行いました。二つの村は、共にインド政府により定められた「生態系が影響を受けやすい地域 (Ecologically Sensitive Areas: ESA)」であり、保全と開発の間のバランスが保つことが大切です。植物種、鳥類、その他の動物の多様性の理解のため、二つの村にある神聖な森を調査しました。神聖な森は、コミュニティにより管理され、守られている古い森で、その地域の生物多様性を代表しています。74種の植物、34種の鳥類、14種の蝶、3種のアリが約4ヘクタールのカーベット村の森で見られました。デバデ村では、自動撮影カメラを使って動物の生息状況を調査しています。神聖な森と隣接する森の一带では、サンバー（鹿の一種）などの被食者とヒョウなどの捕食者の個体数のバランスも良好で、食物連鎖から見た健全性も高いことが分かりました。



カーベットの神聖な森にあるお寺（左）、セイタカミロバランの巨木（中央）、神聖な森で見られた鳥（ズグロコウライウグイス）（右）



デバデ村の自動撮影カメラで撮影された動物：サンバー（左）、オスのヒョウ（右¹）

コミュニティとの会合

保全契約を実施できるかどうかの調査の一環として、候補地であるデバデ村、カーベット村、テリエ村、ヘダリ村でコミュニティとの会合を持ちました。こうした会合は、地元コミュニティの代表者が現状の森林管理や森林利用についてどのように考えているか、そしてコミュニティはどのような便益を期待しているのかを理解するために重要です。4つの村のリーダーからは、森林の所有権を有する村人に適切なインセンティブが提供されるのならば森林保全に前向きとの意見が出されました。興味深いことに、カーベット村の村人は、近隣の村で私達 AERF が実施している森林保全の取り組みの噂を聞いていたため、プロジェクトについて詳しく知りたがっていました。デバデ村の村人も、取り組みについて耳にし、AERF チームに会って、疑問について話し合い、保全契約の要点について理解し、期待を話したいと希望していました。



村のリーダーとの会合(右:カーベット、左:テリエ)

適切な生計手段

¹ 自動撮影カメラの時刻設定が誤っているため、日付は不正確

私達 AERF は、長年にわたって、コミュニティが生物多様性を持続可能な形で活用して収入を得ることを推進してきました。保全契約は、その取り組みの土台です。非木材林産物の持続的に採集に対する関心を向上させるため、2013 年より、地元コミュニティの収入の増加が期待される、フェアワイルド認証に取り組んできました。2015 年には、AERF は、南アジアの団体として初めてフェアワイルド認証を受けました。この認証を受けたことにより、コミュニティメンバーは、採集した果実を市場価格の倍以上の価格で売ることが可能です。ダイキンの支援を受けている地域では、シクシン科のセイタカミロ balan (*Terminalia bellirica*) の木から果実が採集されています。セイタカミロ balan は、非常に大きくなる木で、サイチョウを初めとした多くの鳥が巣を作る木でもあります。

今期、AERF のスタッフは、認証を受けているセイタカミロ balan の木がきちんと守られるよう、認証されていることを示すタグをつけました。また、新たに認証を受けた地域で、フェアワイルド認証で定められている採集方法についてのトレーニングを果実を採集している村人に対して実施しました。15 家族が参加し、持続可能な果実採集からの便益を得ると同時に、300 本のセイタカミロ balan の木が守られました。



AERF の現地事務所でのトレーニング(左)、セイタカミロ balan へのタグ付け(右)